

## 1 学校の状況と地域の実態

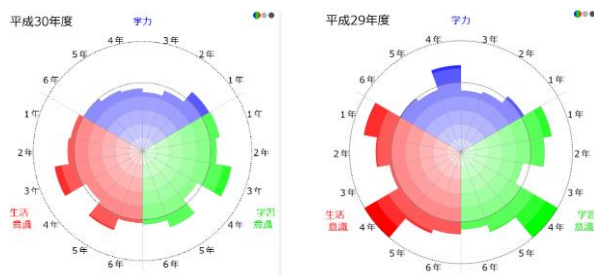
- (1) 「学び合いを通して多面的なものの見方をし、自分の思いや考えをもって行動しようとする理科・国語学習」を通して育てる研究活動は、授業を中心として深めていく。教員の研究・研修体制を強化する。
- (2) 経験の浅い教員もおり、校内での研究や研修を通して基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもへの対応へ全職員で指導体制を構築している。
- (4) 子どもたちの一日の家庭の勉強時間は、市全体の平均よりも上回り学校全体で同じような指導体制を整えている。
- (5) 家庭学習や地域の特徴を活用した学習を必要に応じて取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。

## 2 中期学校経営方針 「生きてはたらく知」達成目標

### (2) 学力向上に関する指導の目標・方針（令和元年度末の姿）

○一人ひとりの子どもが、学び合いを通して互いの良さや可能性を感じ、「分かる」「できる」「深まる」「もっとやりたくなる」を目指し、基礎基本の定着を図ります。

## 3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年度の実態把握



### (1) 学力の概要と要因の分析

ここ数年、全体的には、横浜市の平均的な学力であると見られたが、学習意識、生活意識がやや低くなってきている。授業が分からないと答えている回答も一定数あり、授業改善が求められている。

### 2) 教科学習の状況

- 国語科：概ね平均的な学力を発揮しているが、学年によっては「話す・聞く」の問題に課題が残る。
- 算数科：技能については、学年によって課題が残る。基礎的知識の観点では全ての学年で授業改善が必要である。
- 社会科：学年によるが、知識を問う問題に課題が残る。
- 理科：学年によるが、技能に関する問題に課題が残る。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

瀬谷小の学力層は横浜市と比較し、ほぼ同じか、やや下回る学年があることが分かるが、経年変化を追って資料を見ていくと、25年度より昨年度までは学習成果も、生活・学習の意識も1年ごとに着実な高まりが見られる学年が多かったが、今年度の結果に関しては、学年によって前年度と同等、もしくは、前年を下回る結果が見られた。近年、家庭学習指導や漢字の継続指導等に重きをおいた学習習慣の定着を図るなど学習支援への取組に力を入れてきている。そのことは、児童質問紙の「塾に行っている」児童が、市のポイントより8ポイント低く、「家での勉強時間」が1時間（塾を除く）以上の児童が市より9ポイント高いことから、成果を感じている。

しかし、より学習効果を上げるための個に応じた指導は必要である。「ノート書き方」「学校の勉強は分かりやすいですか。」については、市の平均を上回る学年が増えてきているが、市の平均を大きく下回っている学年もあった。このことから、個に応じた指導の必要性がより一層感じられ、授業改善が求められる。

また、重点的に指導してきた「自分の考えを話すこと」では、以前は全学年で市の平均を大きく上回っていたが、昨年度は学年によっては、平均を下回る結果となった。また、それに伴い「話したり、聞いたりして、人と関わることが好きですか」という質問の回答も「はい」の割合が市平均を下回る学年も見られた。このことから、異学年交流だけにとどまることなく、子供たちの関わり合いや学び合いによる育ちを日頃の授業の中で実感できるような授業改善が必要と言える。

## 4 令和元年度の目標と具体的方策

### 令和元年度 目標

**問題解決場面・言語活動を位置付けた表現する場や相互交流のある授業  
学び合いの中で、「分かる」「できる」「深まる」「もっとやりたくなる」と子どもが感じられる授業の実現**

### (1) 学校組織としての共通の取組

- **自分の課題と相手意識を大切に学習活動の充実**  
学習の課題（問題）を意識し異学年交流のシステムを利用し、「だれのために、何のために」学習をするのかを意識できる授業をつくる。
- **問題解決学習・言語活動の充実**  
授業の中に問題解決（問題を見出す、自分の考えを表現する）や、言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を必ず一つ以上位置付け、自分の考えを表現、交流できる授業を行う。  
エラー！リンクが正しくありません。

### ○ 問題解決場面や言語活動での「学び合い」の充実

#### 1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場を位置付ける。
- 学級活動等で自分たちの生活を楽しむ学び方を知る。疑問な点を尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

#### 2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場を位置付ける。
- 学級活動等を通して、思ったことを確かめたり、関連した情報を提供したりしながら話し合う。

#### 3 学年

- 理科や社会科など、物事を比較することで気付いたことや考えたことを書いたり話し合ったりする活動を取り入れ、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場を位置付ける。
- 相手の話を聞く力を伸ばすことを大切に、自分と同じ所や違う所を意識しながら相手の話を聞き、考えを交流できるようにする。

#### 4 学年

- 全ての教科で説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場を位置付ける。
- 相手の考えをよく聞き共通点や違いを意識したり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合う。
- 一人ひとりが自分の思いをもって表現できるように、個に応じた支援をする。

#### 5 学年

- 自然事象や社会との関わりの中で主体的に課題を見つけ、進んで課題解決に取り組むことができるようにする。
- 自分の経験や考えを生かしながら、友達との学びあいの中で考えを深めていけるようにする。
- 学習の内容を言葉を使って表現したり、振り返ったりする活動を通して、学習の内容を定着を図る。

#### 6 学年

- 自然事象との出会いを大切に、主体的に問題を見出すことができるようにする。また、話し合いの場を意図的に位置づけ、問題に対して、深く考えたり自分の考えを表現したりすることで多面的に物事を捉えることができるようにする。
- 学習したことをふり返ったり、日常生活に照らして考えたりすることで学習内容の定着を図る。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考に、必要な学習を行うようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。